

「平成 25 年度高知県感染症対策協議会エイズ・性感染症対策部会議事録」

日 時 平成 26 年 2 月 21 日（金）18:30～20:30

場 所 県庁 2F 第二応接室

出席者 部会員 5 名

事務局：健康対策課 4 名、衛生研究所 2 名

1 エイズ・性感染症の発生動向について

（資料 1）

■事務局からの説明

(1) HIV 感染者及びエイズ患者の現状

- ・全国の平成 24 年の HIV 感染者は 1,002 人、エイズ患者は 447 人と前年度と比べると、減少している。
- ・高知県の現状としては、平成 24 年は、HIV 感染者は 1 人、エイズ患者は 2 人、平成 25 年は、HIV 感染者は 2 人の報告数となっており、近年は横ばいの状況で、平成 62 年以降の累計としては、HIV 感染者は 30 人、エイズ患者は 16 人の合計 46 人となっている。人口が同じくらいの鳥取県と島根県を比べると、高知県は、若干多い状況となっている。
- ・全国の HIV 感染者の性別割合は、圧倒的に男性が多く、感染経路は同性間の性的接触が多い。女性は、異性間の性的接触が多い。エイズ患者でも、男性が多く、感染経路は、同性間の性的接触と異性間の性的接触がほぼ同数となっている。女性では、異性間の性的接触が多くなっている。

(2) 保健所での相談・検査件数について

- ・全国では、平成 24 年の相談及び検査件数は減少しているが、高知県は、相談件数は、139 件、検査件数 568 件と平成 23 年に比べると若干増加している。
- ・全国の献血件数での HIV 抗体検査陽性件数は、2012 年は約 527 万人のうち陽性者は 68 名となっており、年々減少傾向にある。

(3) 平成 25 年度高知県エイズ治療拠点病院連絡会について

- ・針刺し後の HIV 感染防止体制整備事業及び高知県エイズカウンセラー派遣事業、HIV 抗体検査、予防啓発について意見交換を行った。
- ・本会については、今後も年に 1 回程度開催していく予定である。

## ■意見交換

### (1) HIV・エイズ患者について

- ・ HIV 感染者及びエイズ患者は、診断した病院から報告されるので、患者が高知県の方でない場合も考えられる。また高知県の方でも県外の病院で診断されると、県外から報告されるので、実際に高知県の方がどれくらい報告されているかは分からない。
- ・ 患者の現在の状態について、紹介状を受け取った拠点病院同士での情報交換やその後について伝えることはある。

### (2) 定点医療機関について

- ・ 昔に比べると、罹患の件数自体は減少していると思うが、やはり高知県の報告数は少ないと思う。
- ・ クラミジア等の性感染症については、大学病院に行くことは、ほとんどないと思う。定点把握の医療機関数が少ないのではないか。

### (3) 医療機関の報告体制について

- ・ 定点医療機関の中でも部署が数多くある病院は、ある1つの部署からの報告はあってもその他の部署からの報告はされていないことがある。病院の体制の問題ではあるが、徹底するのは難しい現状がある。病院の中でも担当がはっきりしておらず、分かっていないことがある。

## 2 平成 25 年度高知県性感染症実態調査の途中集計の報告（資料 2）

### ■事務局からの説明

#### (1) 本調査の結果について

- ・ 全疾患合わせての報告数は、1,243 件で男性は 310 件、女性は 933 件であった。
- ・ 月別でみると、4 月、10 月に報告数が多く、疾患別では、クラミジア 638 件が一番多く、次に、ヘルペス 361 件、淋菌 158 件、コンジローマ 86 件の順に多い。
- ・ クラミジアは、女性に多く、男性は、20 代、女性は、10 代～20 代の若い世代に多い。
- ・ 性器ヘルペスは、女性に多く、男女ともに年齢区分でみると、横ばい傾向であり、各年代で多い傾向がある。
- ・ コンジローマは、女性に多く、クラミジアと同様に若い世代で多い。女性は 10～20 代で多く、男性では 30～40 代で多い。
- ・ 淋菌は、男性は 20 代、女性は 10～20 代と若い世代に多い。
- ・ 年代でみると、クラミジア及び淋菌は、平成 14 年から報告数も減少しているが、ヘルペス及びコンジローマは、ほぼ横ばいで大きな変動はない。

- ・感染症発生動向調査の定点医療機関と今回の性感染症実態調査の定点あたりの報告数をみると、クラミジアでは、感染症発生動向調査では、3.8人であるのに対し、産婦人科では29.2となっている。どの疾患でも性感染症実態調査の方が、報告数の割合が高く、また、病院よりも診療所の方が高いことが分かる。

## ■意見交換

### (1) 感染について

- ・ヘルペスは高齢者に多いが、再発ではないかと考えられる。感染したのは昔で、免疫力の低下とともに再発したとも考えられる。この数字だけでは最近感染しているかどうかは分からない。
- ・コンジローマも再発はすると思う。淋菌は、すぐに症状があるので、再発はあまりないと思われる。よって淋菌は、最近感染したデータとして読み取れると思う。
- ・クラミジアは再発というよりは、再感染が多い。再発の可能性は、治りきっていない場合はあると思うが、基本的には再感染が多い。
- ・頸管内に感染している場合は、通常の治療でいいが、腹腔内まで進んでいる症例では、なかなか治らないことがあるので、完治は難しい。
- ・クラミジアは5人かかったら4人は症状がでないので、受診しないことが多い。腹腔内までいくと必ず症状が現れるので、受診すると思うが、症状がなければ難しいのが現状である。

### (2) 保健所の検査及び啓発について

- ・保健所の検査件数は、年々減少傾向である。
- ・性感染症は、子ども達にとっては、人ごとのように感じているので、もっと啓発が必要だと思う。
- ・中学3年生を対象に性感染症をテーマにした授業で、クラミジアについて話す学校もある。子供たちは、知らないといけないと思う。

### (3) エイズの治療について

- ・エイズは今や死の病ではなくなり、薬を飲んで治療をする病気である。治療費は1人に1億かかると言われている。死なない病気になると逆に危機感がなくなってしまっているのではないかと。
- ・HIVに感染して、薬を飲むとウイルスが少なくなるので、感染させる可能性は少なくなる。薬を飲むことは、本人の治療と同時に新しい人にうつさないという予防にも繋がる。

#### (4) 調査の報告者について

- ・ 性感染症実態調査及び定点医療機関の報告者の把握はしていない。
- ・ 全数把握の疾患については、ドクターの名前付きで一人ひとりの状態が分かる報告様式だが、性感染症は定点把握のため、報告者までは分からない。
- ・ 件数については、病院によっては、検査データから拾うことがある。
- ・ 高知県の定点医療機関は、大きい病院であるが、実際に受診するのは、診療所だと思うので、実態把握は難しいと思われる。

#### (5) 梅毒について

- ・ 性感染症実態調査の梅毒の報告数は 0 件であるが、感染症発生動向調査の報告数は、8 件である。届出のあった 8 件の医療機関には、性感染症実態調査にご協力いただけなかった医療機関であるため、報告件数が異なる。
- ・ 発生届をみると、活動性梅毒が多いようである。高齢者は 3 割程度いて、昔に感染したとも考えられる。30 代も 3 名いる。